

〔国際会議開催〕

申請者	株式会社ソニーコンピュータサイエンス研究所 リサーチャー 竹内雄一郎	2185008
国際会議名称	ACM ISS 2018 (The 2018 ACM International Conference on Interactive Surfaces and Spaces)	
開催期間	2018年11月25日～11月28日	
開催場所	野村コンファレンスプラザ日本橋 (東京都中央区)	
申請者の役割	General Chair	

概 要：

近年、公共空間への大型ディスプレイの設置が進んだり、演劇やコンサートにおける空間演出へのIT活用が広がるなど、先進的な情報技術と空間（建築や都市環境など）との融合が進んでいます。本会議はこのような実社会における動きを受け、2016年に新たに発足した国際会議です。第一回・第二回会議はそれぞれカナダと英国で開催され、2018年11月、第三回となる会議を東京で開催しました。

会議では合計28件の口頭発表と15件のポスター発表、21件のデモ発表が行われ、大型ディスプレイの利活用に関する調査研究や、ジェスチャ認識や3Dディスプレイなど空間スケールの入出力技術に関する新規提案、ARやVRの応用など多岐にわたる内容の最新の研究成果が発表されました。また研究発表に加えて博士課程の学生を対象としたドクトラル・シンポジウム、空間とテクノロジーの境界領域に関する先進的なトピックを扱った2件のワークショップが開催されました。会議の開会時と閉会時には、それぞれアラップのダン・ヒル氏、ライゾマティクスの齋藤精一氏による2件の基調講演が行われました。

会議の参加者は合計165名で、うち日本人は74名(45%)でした。参加者の多くは工学系の研究者でしたが、建築や都市デザインの専門家も加わるなど学際的な集まりになり、人間と調和した次世代の空間設計にまつわる総合的な議論が展開されました。